

平成25年度

第5回 鶴岡地域審議会
会議録（概要）

期日：平成26年1月21日（火）

場所：鶴岡市役所 議会委員会室

平成25年度 第5回鶴岡地域審議会会議録（概要）

○ 日 時 平成26年1月21日（火） 午後3時30分～

○ 場 所 鶴岡市役所 3階 議会委員会室

○ 出席委員（五十音順）

伊藤俊昭、後藤輝夫、今野毅、齋藤春子、菅原衛、菅隆、竹内峰子、竹田理英、
茅野進、土岐純一、早坂剛、本間仁一丸山絢子、三浦惇、山田登

○ 欠席委員（五十音順）なし

稲泉眞彦、奥山春名、今間智寛、田村勇次、横山真二

○ 市側出席職員

企画部長 三浦総一郎、企画調整課主査 佐藤豊、地域振興課長 阿部真一、
地域振興課主査 三浦裕美、地域振興課専門員 前田哲佳、地域振興課主任 小野寺善紀、
地域振興課主事 富樫智彦

1 開 会 （午後3時30分）

2 あいさつ

3 協 議

（1）鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について

4 報 告

（1）各地域審議会の提言について

（2）その他

5 そ の 他

6 閉 会

1 開 会 (午後3時30分) 進行:阿部真一地域振興課長)

2 あいさつ (早坂剛会長、三浦総一郎企画部長)

3 協 議 (議長:早坂剛会長)

(1) 鶴岡市総合計画後期基本計画の策定について(説明:佐藤豊企画調整課主査)

○ 早坂剛会長 ただ今の説明で、お気づきの点やご意見などがございましたら承ります。

○ 齋藤春子委員 各地域振興のビジョンについて、各地域審議会の提言書も目を通しましたが、その中から抜粋したのでしょうか。それと各地域からの提案なのか、あるいは市の施策として進めたいということでしょうか。地域ごとに随分特色があると思いました。この部分は市全体の流れに沿った形かと思いますがいかがでしょうか。

○ 佐藤豊企画調整課主査 地域振興のビジョンに基づく施策へのご質問ですが、この部分と各地域審議会の提言書は直接的にはリンクはしておりません。地域振興のビジョンは、平成19年度に合併後の旧町村の地域振興を図る目的で、5つの地域庁舎で策定いたしました。策定から5年経過していることから、今回見直しをして新たな地域振興計画を策定するというので、基本的には行政主導で取りまとめたものです。今回の後期基本計画の中でも、合併後の地域振興を図るといった趣旨からここに記載をいたしました。なお、地域振興計画の取りまとめを行う上では、ご提言いただいた内容も考慮した計画案となっております。

○ 早坂剛会長 提言書を提出した時に、各地域が提言の要点を申し上げましたが、羽黒だと観光の面に関して特化していました。鶴岡はコミュニティと産業の2つの分野から説明させてもらいましたが、各地域はその地域の特色を申し上げておりましたので、こういうまとめ方もあるものだと思います。

○ 佐藤豊企画調整課主査 補足いたしますが、先ほど申し上げた地域振興のビジョンについては、各地域の特色を生かして地域が元気になるようなプロジェクトを検討しようということがスタートになっておりますので、それぞれ地域の特徴的なところをテーマにした内容になっています。

○ 丸山絢子委員 3点確認したいことがあります。1点目は実施計画の時に数値目標を記載しないのかという趣旨のことを話しました。基本構想、基本計画、実施計画とそれぞれの位置付けがありますが、推進しますや開催しますではなく、今の現状と5年後にこうありたいということで、例えば、今まで開催が3回だったが10回にしますというように、何らかの形で数値目標があったほうが良いと思います。そのほうが具体の目標を持って、行政と一緒にやっていく市民の皆さんも、また、今後どこが主体となるにしてもイメージが湧きやすいと思いますので、全部とは言いませんので目玉となるような部分に関しては、基本計画であっても数値目標を入れ込んだほうが良いのではないかと思います。2点目は6ページに健診受診率日本一をめざす取り組みとありますが、こういう取り組みが前にもあったのでしょうか。日本一を目指すということは、他のどのページにも書いていないので、敢えてここで宣言をしているがすごく珍しいし面白く、とても良い取り組みだと感じました。一方で、移

住して1、2年目に健康診断受診の紙を頂いた時ですが、すごく分かりづらい書類だったことを思い出しました。受診しようと思っても、どうしたらいいのか分からないままに終わってしまったという感じでした。なぜここに日本一をめざすという取り組みが出てきたのかということと、面白く良い取り組みなので、それを目指すのであれば、受診をさせる工夫として書類ひとつにしても一つひとつ工夫が必要ではないかと思いました。最後3点目ですが、13ページの計画の推進のためにはすごく重要だと思います。特に今まで行政主体で行っていたことを、例えば文化会館の改築や一つひとつの事業をとっても、市民の声の反映や一体となって運営するということがないと、この計画の推進の中に車座ミーティングの開催、鶴岡パートナーズの実施と言葉が並んでいますが、これから行政も少ない人材でやらなければならない中で、もう少し細かい説明や具体的なプロセスのようなものを記載したほうが分かりやすいし、また、事業を企画立案する行政側もこれを目安にプロセスにのっとりながら市民の声を反映する。または協働してやっていくのだということで、職員一人ひとりが振り返る場所にもなると思いますので、ここの推進のためという部分に詳しいことを記載したほうがいいのではないかと思います。

○ **佐藤豊企画調整課主査** 1点目の数値目標については、今回は総合計画の中間見直しということで取り組んでおります。従来の基本計画には数値目標を記載していないことから、今のスタイルを踏襲する形で策定を進めております。この総合計画基本計画に基づいて、3か年の実施計画を策定いたしておりますが、今年度は中間見直しということで策定しておりません。具体的な数値目標については、来年度は向こう3か年の実施計画を策定する予定でありますので、その中で触れたいと考えております。ただ全部の項目への記載は難しいかと思いますが、主要な項目については整理したいと考えております。2点目の受診率日本一を目指すということですが、榎本市長が就任される際の言葉からとなっております。受診表の記載が非常に分かりにくいといったご意見は、しっかりと健康課にお伝えしたいと思います。それから、計画の推進で、車座ミーティングの開催や鶴岡パートナーズの実施などについて、より詳しい記載が必要ではないかといったご指摘でございますが、最終的に文章表現にした時に、多少ですが詳しい表現として記載したいと考えておりますが、この基本計画は大きな観点での記載としており、より細かい部分は先ほど申し上げたとおり、実施計画の中で記載するような形となっておりますので、大きな考え方とより細かい記載について、調整をしながらまとめてまいりたいと考えております。

○ **早坂剛会長** 数値目標というのは非常に大事なことだと思います。2ページの少子高齢化に伴う人口減少の進行に人口データが少し出ていますが、これだけ減少していくといろいろなところに影響するはずですよ。子どもの人数で言えば、その地域の小学生の人数が予測され、中学生、高校生の人数もどのように変わっていくのか分かるはずですよ。それから、農業についても、例えば農地面積が5年前と現在ではどうなのか、農業の従事者がどうなっているのかなどデータがあって、初めて5年先がどのように変わるのかということが予測され、どのような対策を取らなければならないのかとなると思います。難しいデータを集めて記述しなさいと言うことではなく、もう少し書き入れないと5年後にどうなったのかがさっぱり分からないような人口減少であったり、いろいろな問題から派生しても変化が見えないと同じ議論を繰り返すことになると思います。市役所の職員の方々は各々の部署でデータを集め

ていますので、ぜひ今回の計画にはデータを出していただければと思います。それから健康診断についてですが、これは鶴岡市の福祉対策と鶴岡医師会、荘内病院との連携ということによって、この健康診断が充実していると思います。そういう鶴岡的な特徴となっているところを、分かっていることなので、具体的に良いことは良いと。数値目標というのは大事なことなので、是非今回入れていただきたいと思います。

○ 齋藤春子委員 データの話が出ましたのでお聞きします。5年間を経過したことで、意図したように進められたかという反省のもとに計画を策定したと思います。反省する前提としてのデータがあったのか、統計的なものでなくてもどのような反省があったのか。例えば、地域の提言書を見てアンバランスに感じます。ほとんど観光だけのところに、コミュニティの問題として、地域を中心にどう進められるかという捉え方をしている地域もあります。これも反省も踏まえての提言だったのかとも思います。

○ 佐藤豊企画調整課主査 ただ今の件ですが、総合計画審議会の下部組織として7つの専門委員会を設置しており、その専門委員会それぞれの分野ごとの検討をしております。そこにはより詳細な統計データやこれまでの点検評価の資料も出しております。今年度当初に各担当に様式を示して取りまとめをした点検評価のもとに、今回の計画が出来ております。かなり膨大な資料でもあるため地域審議会にはお示しをしておりますが、7つの専門委員会で掘り下げた検討をさせていただいております。

○ 竹田理英委員 丸山委員からありましたが、私も今回の資料を見て推進という言葉が随分あるなと感じました。市役所の資料をいろいろなところからいただきますが、推進と検討が多くある一つの会議では検討が10個もあり、どれが本当に一番大事な検討であり、推進なのかということです。この計画に数値目標を出さないならば、優先順位を付けてやっていく必要があると思います。同じく健診受診率日本一をめざした政策の推進で、目指すだけなら何も日本一にならなくてもよいと思います。そして目指すだけなら何でも日本一を目指せばいいとなります。そこで本当に目指すものが何なのかということです。例えば、今年は山形DCですが、たった一年だけでの観光ではなく、鶴岡も京都や奈良、鎌倉のように名前を言っただけで分かるようにすることを目指す。それには他の他市町村とも連携しながら、山形県全部が観光都市になるように県と一緒にした取組みも必要だと思います。今年限りの観光DCではもったいないと思いました。また、農業の部分で、私は農家ではないので農業のことは詳しくありませんが、合併で藤島も一緒になりましたから、もっと鶴岡市として農業に力を入れていく施策をこの部分に加えていくべきではないか。今野委員から聞いて、もう少し農業の部分盛り込めれば良いのではないかと思います。

○ 今野毅委員 農業のことが出ましたが、まず基本計画の目指す方向は概ね良いと思います。各分野については実施計画の中で、必ず数値目標や年次目標も入れながら進めていくのだろうと思っています。農業だけではなく商工関係、他の産業も含めてだとは思いますが、分野別に章ごとに書いてあります。市とは膝を詰めながら、鶴岡市にはJA庄内たがわと私どもの鶴岡市農業協同組合がありますから整合性を取りながら、農業の現実を様々に捉えながら、あるべき姿については、市だけでなく県、国とも情報交換しながらやっておりますこ

とを、皆さんにご認識いただければありがたいと思います。市長や県知事がよく言われるように、農業がこの地域の大事な産業だということは私どもも十分な認識のもとでやっておりますので、なかなか難しい状況にありますが、乗り越えなければならない壁だということも私も思っております。鶴岡市もこの新たな計画の中でも、必ずや実効性のあるものにしていきたいと思っているでしょうし、5年間のうちに何らかの形をこの状況変化の中で、残していかなければならないという認識を持っています。その点ではこの計画は大方網羅されたものだと思っています。

○ **佐藤豊企画調整課主査** 推進あるいは検討という表現ですが、基本的に方向性を示す計画と考えておりますので、極力検討で終わるのではなく、こういうことを進めます、取り組んでいきます、というような表現には努めているところでございます。それから、何が一番大事なのかよく分からないというご指摘でしたが、総合計画は全分野にわたり幅広く取りまとめております。前期の基本計画については、体系のみの作り方で、1章から6章までの取り組みについて記載をさせていただいておりました。また、総合計画はどうしても総花的になりがちだというご意見もいただいておりますので、あえて重点的、中核的に取り組む内容については、今回お示しをしたつもりでございます。鶴岡ルネサンス宣言という、榎本市長が鶴岡のまちづくりの柱で掲げておりますフレームに従いまして、今回特に力を入れていくものについて、前段のところでお示しをいたしました。一步進めた形としておりますので、ご理解いただければと存じます。それから、観光についてご指摘をいただきました。先ほどの説明で5ページ観光文化都市の主な施策に、広域連携を生かした広域観光ということで、鶴岡のみのエリアでとどまるのではなく、より広域的な観点での取り組みを進めていくことも記載しておりますので、ご理解いただければと思います。

○ **早坂剛会長** 皆さんのご意見をいただきたいので、4の報告と続けて進行させていただきます。

○ **土岐純一委員** 森林組合という立場から森林を重点的に見ました。今の原発の関係から、エネルギー問題が大変重要な課題として報道されていますが、その中のエネルギー資源としての森林の活用は、大変重要な位置を占めていくのではないかと感じております。そういう面から今の計画の中では、バイオ関係のこと、今まで森林を育てることから進めてきましたが、どのように活用していくかということも大変重大な課題ですので、そういう面でエネルギー問題への対応した内容が入っていることと、こういう方向で進むことに対していいのではないかと感じております。昔の薪炭的なエネルギーとして復活が出来て、そういうところから森林の活用を見出すことが出来れば、大変いい方向ではないかと感じました。

○ **三浦惇委員** 今年6月からのDCキャンペーンは非常に重要な位置付けで、鶴岡市の今後の観光の方向付けの出発点だと考えています。いろいろな環境の整備を図るとありますが、特に来年は北陸新幹線が、その後は北海道新幹線が開通されるので、それを乗り越えるためにもDCキャンペーンは極めて重要だと思っています。受け入れについても、市民総ぐるみ、地域全体での取り組みが必要です。前回市民に対してのPRが不足ではないかというお話がありました。これから市民に対して観光客の受け入れや心構えを、おもてなしを含めてやっ

ていく必要があるのではないかとということです。今、鶴岡市の観光入込数は山形県で一位ですから、それを持続、発展させていきたい。ただ主な施策として具体的に書いてありますが、これを地域も含めてどう実践していくのかがとても重要だと思いますので、そういう意見も踏まえながら取り組んでいきたいと思います。

それから、3ページの地球環境と資源の制約の高まりですが、資源循環型の社会をどう作るのかが極めて重要だと思っておりますが、とりわけ資源の乏しい日本ですから環境問題を含めて考える必要があります。条例に基づく環境基本計画や廃棄物処理の計画がありますが、今の総合計画と期間がずれている感じがします。総合計画に載せるとすれば、総合計画の7つの専門委員会とは別に、環境審議会などの意見も反映させていただきたいというのがあります。ごみ処理問題は市民生活にとって日常的で最も大きいという観点から進めていただきたいと思います。分野別の施策の中にもあるように熱エネルギーの観点で進めているようですので、今のやり方を総括した上で、今のリサイクルの転換を図るなら図ることも考えていかなければならない。もう一つは平成30年代の初期段階で、リサイクルセンターの処理期限が来るということを知っております。それから岡山最終処分場も今のままでいくと平成30年代には満杯になるとのことですから、一連のごみ廃棄物関係の環境問題を含めた一貫した方向付けをここに記載しないと、ただ資源循環型社会を目指すということだけでは足りなると感じます。先のことは書いてありませんので検討していただければと思います。ただ全体的に基本計画ですから、こういう文書表現ではいいと思っております。実施計画の中でどこまで具体的に記載されるか分かりませんが、環境基本計画や廃棄物処理の計画との整合性を図って進めていただければと思います。

○ 菅隆委員 方向性としては大変よくまとめられている基本計画だと思います。ただこの地域審議会の産業経済分科会の中で特に強く出ていたことは、人口減少の問題を最大の課題としながら、その背景には人をこれ以上減らさないと言うか、少しでも多くの方、今育とうとしている子ども達たちにはなるべく地域に残っていただく。そして外からも移住をしていただくようなところまでを見込んで、話し合いをさせていただいたと思っております。その部分では、特に子育てや市長の雇用対策の発言といったところも含めて、今いる子ども達に対して、その地域での就業といった部分については随分書いていただいて、それに伴う子育て環境も含めた周辺の環境についても、分野ごとの中にちりばめられていると思いますが、移住の受け皿的な視点の部分の基本計画の中では踏み込まれていないというのが感想です。今後の推進体制をどのようにするのか。実施計画を策定される中で、そういう部分にも視点を置いていただきながら、今いる子ども達をなるべく地域で雇用が出来るような環境だけではなくて、UターンさらにはI、Jターンといったように外から全く鶴岡と縁のなかった方々にも、鶴岡で定住化を図っていただけるような環境づくりを目指そうというところを入れていただきたいと思います。

○ 菅原衛委員 様々な問題がある中でまとめ方が大変素晴らしいと思っております。各地域の提言書も見させていただきました。旧町村のリンクに関してはあまりしていないというお話でしたが、各地域の提言書を見ますと、合併した新市としての醸成を図るという、醸成という言葉が随所に出てきたので、提言書なのでどこまで掘り下げた方がいいのか分かりませんが、意識した文書なり施策にいただければと思います。

○ 伊藤俊昭委員 婚活の話がありましたが、私は消防の関係から、今消防団3200人位おり独身の消防団員がかなりいます。消防団というのは、ここに記載のとおり各地域に密着した形で、合併した市町村の隅々まで団員がおります。婚活イベントを前もって知らせていただければ、参加する働きかけも出来るのではないかと常々思っております。婚活イベントをただやる、何回実施するというだけでなく、もっといろいろな組織に声かけをしたり、意見を述べさせることなども含めて、今後の婚活イベントのあり方について検討していただければと思います。

それから、地域防災という一番目に自主防災活動が出ますが、自主防災は消防団との深い連携が必要です。いざ大きい災害の場合は、2日間ぐらいは自分たちの地域は自分たちでという活動になると思いますので、自主防災組織、婦人防火クラブ、消防団が訓練や計画の段階から一緒になって実施していく。既に実施しているところもありますが、全地域がそのような形で進んでいくような方式を市役所でも指導していただきたいし、自主防災組織の中に消防団も婦人防火クラブも入れていただいて、また、消防活動協力隊という組織もありますので、一つになって訓練するようもっていきかたを、是非検討しながらやっていただければ、いざという時には役に立つのではないかと考えておりますので、その辺も計画の中の細部の点や進め方の中で、検討していただければと思っております。

○ 後藤輝夫委員 基本計画を読み行政、地域、住民といった時に、何が出来るのかと考えておりましたが3点申し上げます。1点目は16ページの交通安全についてです。この会でも鶴岡市民の交通マナーの悪さの話があり印象に残っています。このマナーの悪さは、歩行者や運転者の人の問題や安全教育からの問題だけでなく、古い街並みによって交通事情が変わってきているところにもあります。直進する車に対して右折左折の別なく割り込んだ者が勝ち、そして交通死亡事故は必ずしも交差点で起きているのではなく、狭いから渡れると思う気持ちが、歩行者やドライバーにあることに起因していると考えますから、今後5年間では不可能かも知れませんが、市街地の道路の拡幅まではいかなくても、すみ切りを確保していく努力をしていただくよう望みます。2点目は、子どもたちの健やかな育成で、適正な教育環境の整備として、湯田川が田川と一緒に新しい第四小学校に統合することになりました。現在の4小が出来た時は市街地のはずれでしたが町の中でした。今度は田んぼの中です。現在の既存の道路をスクールバスで通学する場合、交通渋滞が予想されることは統合する田川や湯田川の人たちにとって心配される場所ですが、今後新しく住宅街がどんどん出来るかもしれないが、現在の4小学区の人たちからすると学校の位置が変わることで、仮に田んぼがすぐ見える西側の道路が通学路になったら街灯も何もないことから、通学路の安全の確保に行政は目を向けて欲しいと思います。

最後に老人クラブ会長の立場から申しますと、健康長寿の延伸として高齢者の比率は30パーセントを超えて40パーセントになる中で、命は伸びるが身体機能は低下の一途をたどっております。防犯防火の問題からは取り上げられますが、高齢者の独り暮らしを訪問しますと、テレビの音はするが耳が難聴なので出てこない。どうすれば外や玄関まで出せるのか。健康な人たちは毎回いろいろな事業に参加しますが、この人たちは中に埋もれているのです。家のチャイムを押して玄関まで呼び出してコミュニケーションをとって、地域や行政のいろいろな行事に誘い出していかなければ、本当の長寿社会の地域づくりにはならないと思います。それから、自主的に活動するグループなどがありますが、今から10年ほど近く前に担当課

で高齢者を銀座通りのセンターに集めて筋しゃんというサークル活動をしました。一生懸命やると身体機能も低下しないし面白くなる。終了してからも自主サークルをつくって続けようとしても、行政の担当者が変わって別のやり方になると、自主サークルの活動が出来なくなってしまうのです。計画には自主活動の促進などがありますが、活動する場がなければ長続きしない。30パーセントから40パーセントに該当する人たちを対象に一生懸命保健行政を行うものだから、自主的にと言われても非常に現実には難しい状態になっているので、活動が続けられる施策を入れておく必要があると思いました。

最後に、平成25年5月の最終水曜日にチャレンジデーがありましたが、パーセンテージは良くありませんでした。今後毎年やるとしますので、こういうところに社会参加や身体的活動の位置付けをして、市民のスポーツの振興という点からもチャレンジデーの取組みはぜひ取り上げて欲しいと思います。

○ **竹内峰子委員** 子育て事業を長くやってきた中で、気になる子ども達が多くなったと感じます。それは鶴岡に限ったことでなく全般的なことですが、例えば、お昼前にお腹がすいたと言うので、聞くと朝ご飯を食べていないということが、最近とても気になるようになりました。それから、母子家庭も増えてきたとも感じます。そこで、母子家庭に限らず働くお母さんにとって遅くまで仕事がありますので、市内だと学童保育に子どもを預けます。地域では放課後子ども教室で学童保育と何ら変わりません。例えば日曜日に学校があると月曜日が振替で休みになりますが、親御さんが仕事に行かなければならないので、朝7時頃から子どもさんをコミセンに連れてきて、ともすると夕方の7時頃になる場合もありますが、親が迎えに来るまで預かります。土曜日も日曜日も放課後も学童保育を開かなければならない中で、子どもの居場所が家庭にはなくなってしまうのではないかと思います。子どもをどんどん増やそうという気持ちは、いろいろなところから出てきます。昔は大家族でそんなに裕福とは言えなくても食べ物で不自由だとはなかったという意味で、朝ごはんも食べさせてもらっていないような子どもが、実は今いるというのが分かりました。子どもを守ろうとする部分と子どもを増やそうというのは原点が違うのかなと思います。子ども生んで育てやすいこともそうですが、育てることに意義があるので、そういうことに目を向けていかなければと思います。今の時代、結婚はしない。結婚したと思ったら離婚。結婚しても舅姑がいると出ていく。そうすると年寄りだけが残る。何か悪循環を繰り返しているような家庭が多く感じられ、その中で犠牲になるのは子どもなのかなと感じます。自分の生まれたところが良くて、親から大事に育てられれば、一時大学や就職で外に出ても必ず帰ってくるのではないかと思います。子どもの時にあまりいい状況でなければ帰ってくるという人は少ないと思います。そして、お母さんが夜遅くまで働くというのが現実だと思った時に、子育てというものをもう一度見直す時にきているのではないかと感じています。

○ **茅野進委員** 私は福祉の立場から、3の成長戦略の中で6ページの(4)で、地域の活性化や少子高齢化時代にあって高齢化をどう生きるのか。それには生きがいづくりとして、高齢者の知恵を發揮するというものがあってもいいのではないかと思います。分野別の施策には、今までの福祉ニーズでは対応できないようなことについても必要と出ているようですが、具体的に実施計画をどこでやるのかが必要だと思います。私は鶴岡市の福祉計画や高齢者の健康づくりの計画を行政と一緒に作りましたが、どういう実施計画をこれからつくる

のかということが、これからの問題で大事なことではないかと思いました。それから、私は会議にいくたびに総合計画をもらいますが、共通理解を図るため総合計画を町内会辺りまで配布したらよいのではないかと感じました。素晴らしい総合計画だと思っております。

○ **本間仁一委員** 3ページに地球環境とありますが、人類にとって地球温暖化が、まず最大の課題だろうと私は捉えております。下段に本市においてもということで、木質バイオや小規模水力発電といった、いわゆる出来ることが書いてありますが、この他にも例えば、太陽光発電や風力発電など当市でも可能だと思われることが、いろいろあると思いますので、これらを踏まえて、もう少し鶴岡市ではこういうことを進めていくのだということを書いてもらえればと思います。もう1点は15ページに、住民自治組織の強化と地域活動の担い手の確保、リーダーの育成とあります。私も住民自治組織のことをやっていて一番感じることは、リーダーや担い手の確保については、これまでもいろいろ論じられ必要性は十分分かりますし、そのようになっていくべきだと思いますが、実際には、一般の方の価値観の多様化、帰属意識の低下と言いますか意識の薄れ方があって、なかなかその組織としてのあり方がなっていないことを非常に強く感じます。そういう形で、自治組織の運営が難しいとか、結局リーダーだけでなく、むしろ会員の意識の切り替えが、私は非常に大切なことだと思っています。その辺も加えて展開していければありがたいと思っています。

○ **山田登委員** 大変よく出来ていると思います。特に本間委員が言われたページ、町内会に関係のあるところは大変よくまとまっていると思います、それからリーダーや町内会をどのように動かしていくかということで、今回も第2学区から市職員の意識改革ということをお願いして回答をいただきましたが、町内会の活動については市職員の方々からも積極的に参加してもらい、退職後は役員を引き受けていただくというようなことなのですが、そういう意識で現職の時から市民と一体とやっていただいきたいというようなことを申し上げ、その通りの回答をいただいておりますので、大変ありがたいと思っています。それからエネルギーに関連して、今年度市街地の防犯灯を蛍光灯からLED方式に切り替えるというお話があり、これは大変大きい事業であり会長さん達は戸惑いもありましたが、賛同して現在事業を進めております、3月末頃までには、市街地は防犯灯が蛍光灯からLED方式に全部切り替わっていくという、具体的な大事業があるので、それが家庭の蛍光灯も切り替わるのが望ましいのかどうか、それが一つの手本になるのだとすれば、そういった文言を出した方がいいのではないかとというのが感想でございます。ただ、新しい技術を導入した機器という表現になってはいますが、先ほどもありましたが、水力発電や太陽光発電などといった具体的な名前を出して、将来の方向性がこうあるべきだということを、明確にしたほうがいいのではないかと感じております。

○ **早坂剛会長** いろいろなご意見がありました。企画調整課で何かありますか。

○ **佐藤豊企画調整課主査** 大変多岐にわたりご意見頂戴いたしました。頂いたご意見については今後整理をして、各専門委員会や本審議会で意見反映してまいりたいと思っておりますし、各担当課にも申し伝えたいと思っております。お話を聞く中で、非常に的確なご指摘をいただいたと思っております。全てにお答えすることは難しい部分もありますが、極力、頂いたご意見で反映

できるものは取り組んで参りたいと思いますので、ご理解いただければと思います。誠にありがとうございました。

○ **今野毅委員** この審議会、農商工観連携の協議会ともう一つ似たような組織があったと思います。早坂会長も同じだと思いますが、私も立場上そのような組織にも出席しますので組織との連携といいますか、総合的にこの地域がどういう形になるのかを導き出す必要があるのではないかと思います。ところで、先ほどのマナーの話もすごく記憶にあった話でしたが、この地域の中でやはり観光やおもてなしも含めて、いろいろたくさんの組織があると思いますが、地域の総合力というのがどの程度発揮できるのかが、市長がいう市民力だと思っています。総合力、トータル的なマネジメントとして是非ご検討をしていただき、この部分に少しでもリンクさせていただければと思っております。

○ **竹田理英委員** 婚活ですが、鶴岡市職員の婚活について提案です。近年は採用が10人弱と少ないことから、昔のように職場でカップルになることは難しいと思いますので、例えば、採用から3年目までの市職員と庄内支庁の職員、消防の方と庄内病院の看護師さんというように、人事交流として楽しみながらという方法で実施してみてもどうでしょうか。それから、先日雷サミットに参加し岡村さんという女性のお天気キャスターの講演がありました。講演で呼んだ方から何度も鶴岡に来ていただく。特に女性の方であれば、出来れば結婚して鶴岡に居住してもらおうというくらいの気持ちを持って呼ぶ。また、講演に来て下さった方には、すぐに鶴岡の観光大使になっていただくということを考えながら、戦略を立てて頂きたいと思います。

○ **早坂剛会長** いつもより貴重なお話しが出てきたのではないのでしょうか。皆さんの意見を聞いて、最近では考え方や価値観が違ってきていることから、例えば、親は子どもに、上司は下の方にうまく伝わっていかない。そういう意味での一つとして教育の仕方があるかも知れませんが、コミュニティにおいても意見を言っても同調してくれないというか、何かそういうことで戸惑っているケースが圧倒的に多いのではないかと思います。交通マナーとありましたが、マナーの点においてもどのように解決していくのかが非常に難しい問題で、時間がかかるテーマではないかと思います。各ジャンルの方が入っていても、結果的には同じ問題にぶつかっていくような感じがします。ぜひこれから、どのように進めていけばいいのかということ、計画の中にも少し触れていただければと思います。最後に企画部長から一言お願いします。

○ **三浦総一郎企画部長** 今日お諮りしました総合計画ですが、市役所には多くの計画がある中でその最上位に位置する計画でございます。全ての計画はこれに基づく計画でなければなりませんので、これを見て整合性を取りながら、下の計画も合わせていくという考え方がなります。そのような位置付けですから、もう少し具体名や数値等を入れ込んだ方がいいのではないかなど、いろいろご指摘がありましたが、具体名を入れることで狭くなってしまい、下の計画に与える影響が大きくなってはいけないことをご理解をいただければと思います。先ほど申しましたが、総合計画の下の実施計画で具体的なものを入れ込んで、より具体的な計画にしていくということでございますので、よろしくご理解をお願いしたいと思います。

○ 阿部真一地域振興課長 長時間にわたり、多方面から積極的にご発言いただきありがとうございます。他の地域審議会の提言書について、冒頭齋藤委員が言われたとおり、各地域ではテーマの設定も内容も非常に違っております。地域の各々の背景や状況があつての設定だと思ひます。観光や日浴道開通などいろいろな要素はありますが、底流にあるのは人口減少をこれ以上進めないようにということです。このような意味では鶴岡地域審議会は、鶴岡地域を超えて共通の課題の基盤となるところを、ご協議いただいたと感じております。

それから、今後の地域審議会ですが、25年度は今回で終了でございます。来年度は新年度予算に基づいた市の事業と、地域審議会の提言を受けてどのような取り組みで進めていくかということで、皆様の任期が6月30日までとなっておりますので、5月頃を目途に皆様からお集まりいただきご説明させていただきと考えております。今年度5回にわたりまして、非常に活発にご協議いただきましたこと、心より感謝申し上げます。以上をもちまして、25年度の鶴岡地域審議会を終了いたします。ありがとうございました。

5 その他 なし

6 閉 会 (午後5時10分) (阿部真一地域振興課長)